

発行所 〒160-0017  
東京都新宿区左門町11番地6の101  
社団法人 大学女性協会  
電話 03-3358-2882  
FAX 03-3358-2889  
http://www.jauw.org  
E-mail: jauw@jauw.org  
発行人 青木 怜子  
編集責任者 端本 和子

# J A U W

## おもな記事

- 1面 会長挨拶、第1回定時会員総会ご案内、東日本大震災災害地支援事業のためのチャリティーコンサート
- 2面～3面 国内奨学生選考経過と提出論文要旨
- 4面 IFUW・Hegg Hoffet 奨学生の報告、国際奨学生研究報告会、新春のつどい、ほか

## 第1回定時会員総会ご案内

早春の候 皆様にはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。  
さて、当協会は、この度内閣府の認可を受けて、平成24年4月1日を登記日として、一般社団法人へ移行いたします。つきましては、移行に伴う定時会員総会を下記の通り開催いたしますので、皆様お誘い合わせのうえ、ご出席くださいますようご案内申し上げます。

### 1. 役員会・祝賀記念コンサート (会場：津田ホール) 総会関係 (会場：都市センターホテル)

月日	会合	時間	会場	費用
5月12日 (土)	支部長会	13:00～14:00	津田ホール 1F 会議室	チケット代 4,000円 (学生2,000円)
	支部長・委員長 合同会	14:00～16:30		
	祝賀記念 コンサート (一般公開)	17:00～18:30	津田ホール 3F	
5月13日 (日)	総会	9:30～15:30	都市センターホテル 5F オリオン	総会費 3,000円 昼食費 2,500円
	新法人発足祝賀会	16:00～18:00	都市センターホテル 6F 601号室	会費 5,000円

### 2. 宿泊

都市センターホテル  
〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-1 Tel.03-3265-8211  
料金 (朝食・税金、サービス料込)  
12日(土) S:12,500円 T:11,300円 (一人使用 17,000円)  
13日(日) S:10,700円 T:9,200円 (一人使用 17,000円)  
チェックイン14:00 チェックアウト10:00  
★交通: 地下鉄永田町駅から徒歩4分、地下鉄赤坂見附駅から徒歩8分  
★ホテルの申し込み・変更及び支払いは、各自ホテルへ直接お願いします。  
★電話でご予約の際、必ず大学女性協会とお伝え下さい。

### 3. 祝賀記念コンサート

★久保陽子ヴァイオリンコンサートを予定しております。  
★新法人発足後の記念事業(一般公開)となりますので、皆様お誘い合わせのうえご参加下さい。  
★コンサートチケットは、入金後に申込住所宛に郵送いたします。

### 4. 申込方法

①申込書に必要事項を記入の上「支部提出用」は各支部へ提出。「個人控」は総会当日、各自ご持参下さい。  
各支部で出席者を取りまとめ、「支部出席者取りまとめ用紙」にご記入の上3月31日までに下記へお送り下さい。

本部事務所 〒160-0017 新宿区左門町11番地6 パトリシア信濃町テラス101号室  
Tel.03-3358-2882 Fax.03-3358-2889 メールアドレス jauw@jauw.org

②費用(総会費・祝賀記念コンサートチケット代・昼食代・新法人発足祝賀会費)は、4月6日までに、必ず同封の郵便振替用紙で個人別にお振込みください。

振込先 口座番号: 00150-7-173434 口座名称: 社団法人大学女性協会

③総会・新法人発足祝賀会のキャンセルは、4月30日までとします。  
但し、総会費3,000円は日時に関係なく返却できませんのでご了承下さい。

※ご不明の点がございましたら下記にお問い合わせ下さい。

第1回定時会員総会実行委員長 中山正子 〒223-0057横浜市港北区新羽町1871  
Tel. & Fax.045-541-2481 メールアドレス masako@c02.itscom.net

## 年頭の挨拶

大学女性協会会長 青木 怜子

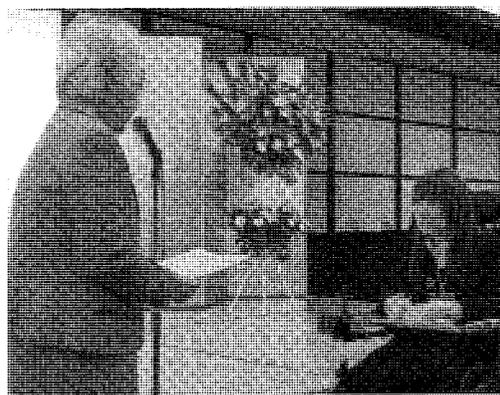
年の初めに当たり、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。昨年は、余りにも多くのことに翻弄され、行く手を阻まれたかの思いが人々の胸に残されました。それが過去のものになったとは思えぬまま、私たちは新年を迎えます。せめてこの年が、心穏やかにして、心豊かな恵みを齎す年となりますように。

混乱と悲惨な過去を見つめながら、日本では昨年、多くの方が、今まで忘れていた何かを取り戻し、何かを大切に思う心を育て合ったと言われています。大切なものは何か。人それぞれ違う何かでありながら、昨年は象徴する一語に「絆」が最も多くの人に共感されたと伝えられました。思えばこの非常時に、私たちの団体で出来ることには限りがありました。高等教育の普及と女性の地位向上は、決して余裕ある社会での活動課題ではありません。しかし、人がその日の一食に事欠く時、それらはどのように役立つかと言われれば、正直、即答はありませんでした。狭い選択肢の中で、私たちは、まず、人が生きながらえることに対して何が出来るかを最優先させ、出来る範囲での救援を現

地に届くことを決意しました。救援の受け皿に、現地で活動する団体の責任者として私どもの会員がおられたことは、何よりも有難いことでした。それこそ、組織としての大学女性協会が持つ大きな絆を見つけた想いでした。次いで私たちは、本命である教育に関わる事業ができないものか検討した結果、被災して保護者や失った宮城県内の高校生が高校を卒業する迄の1～3年間、またさらに、望むならば、高等教育に進学してのあと2年を、給付奨学金の形で支援することに致しました。毎年若干名ながら、向こう数年に亘る長期プロジェクトですが、既に昨年9月から実施しています。これも私たちの通常事業からは、かけ離れたものですが、次世代を生きる人たちの小さな絆が生まれたように思います。

これらのプロジェクトを支えたのは、会員を初めとする多くの賛同者の方々でした。その威力の強さに、今も断つことない感動を覚えます。絆は広く世界に及び、IFUWやVGIIFの会員も心を寄せ、進んで寄付を行う熱意とその温かさに心を打たれました。さらに昨年12月17日、私たちは、この高校生支援の事業を支えるため、東京本郷の求道会館で、チェロの演奏によるチャリティーコンサートを開催しました。殆どボランティアで快く演奏を引き受けて下さった三船文彰様に改めて御礼を申し上げます。このプログラムが第2部に入った時、プロジェクトとコンサートの趣旨に賛同下さった皇后陛下も聴衆に混じりご参加下さいました。ご来場とともに、得

もい温かさが会場を包み、コンサートそのものが被災地に向けての静かな祈禱となりました。災害地復興に向け、私たちが試みる支援は、復興支援の全体像から見れば、取るに足らぬものでしかありません。しかし、少なくとも手をこまねくことに明け暮れた歳月でなかつたことを感謝し、引き続き支援事業を今年も行つて参ります。私たちの支部の中には、仙台のほかに深刻な被害を受けた地域がありながら、協会の事業として支えて下さったこれら地域の支部にも、厚く御礼を申し上げます。そして今年、私たちは新しい法人格のもと、大学女性協会としての活動を開始します。支部との絆を確かめながら進んで来た昨年の事業が、改めて社会との絆を深める第一歩を築けるよう、会の発展を切望いたします。



1月7日(土)京王プラザホテルにて青木会長と社会福祉奨学生の関根彩香さん

1月7日(土)京王プラザホテルにて青木会長と社会福祉奨学生の関根彩香さん

## 東日本大震災災害地支援事業のためのチャリティーコンサート 「三船文彰 チェロ名曲の楽しみ」

日毎に寒さがつのる12月17日(土)文京区本郷の求道会館に於いて、宮城県高校奨学生の支援事業のためのチャリティーコンサートを開催しました。会場は大正4年に建築され、現在、東京都指定有形文化財となっている由緒ある建物で、木のぬくもりと優しい雰囲気にも包まれた素晴らしいホールでした。曲目は1部・2部ともに、大変なじみ深い名曲ばかりで、演奏者の三船文彰さんは、在京のピアニスト須関裕子さんとは2度目の共演とあって、息もぴったりと合い、ホール中にチェロの豊かな音色が響く素晴らしい演奏でした。2部からは、皇后陛下のご臨席を賜り、慈愛に満ちた優し

特設委員会委員長 高田武子  
さ溢れる会場の中で、用意されたプログラムの全て終了し、最後に、東北の復興を願い、全員で「見上げてごらん夜の星を」を歌い、皆さんの心が震災地へ向けて一つになる感動的な余韻を残して、閉会となりました。皇后陛下からは支援への温かいお志を賜り、また演奏者の三船文彰さんからはCDの売り上げ全てをご寄付いただきました。更に会場の皆様からの多くのご寄付もいただき、東日本復興への温かい支援に包まれたコンサートとなりました。求道会館の近角様にも多くの便宜を図っていただきました。皇后陛下をはじめ、多くの皆様に深い感謝を申し上げ、このコンサートが有意義に成功へと導かれたことにお礼を申し上げます。



演奏をする三船文彰さんとピアノ伴奏の須関裕子さん

# 二〇一一年度 国内奨学金贈呈式

二〇一二年一月七日(土) 京王プラザホテル 本館4F「花の間」にて

## 選考と結果

### 第64回 一般奨学生

### 第21回 安井医学奨学生

国内奨学委員長 岡部 佳世

最終応募総数は70件にのぼり昨年度に比べて2割近い増加となりました。公正かつ厳正な選考の後、理事会の承認を経て、下表の通り10名の奨学生が決定されました。

今年度の特筆すべき第一点は理系の応募者の増加です。しかしながらこの理系応募者の増加は支部にとつては厳しい結果ともなりました。なぜなら今年度の支部からの応募は理系候補者が多く、支部のない県からの応募との間で競争が激化したからです。第二は応募の増加に伴い、昨年同様応募者の地域も拡大した点です。当奨学金制度が全国の大学に浸透してきた様子を物語るものでありましょう。選考委員会での評価を一言ずつ記します。

#### 【一般奨学生】

栄留里美さんの研究は、国連子ども権利条約が規定する子ども支援の方法論を分析するもので、実践的かつ具体的な成果が期待できる点からホームズ奨学生として評価されました。

于菜花さんの研究は、認知症患者の死後の医学的脳解剖による早期診断法ではなく、心理学実験と画像実験を用いた早期診断法の確立を目指している点が、評価されました。

吉川貴子さんの研究は、自閉症の発症機構を解明するもので、発生途上のマウス胎児に直接核酸を導入して解析を試みている点が評価され、国際的な科学者としての成長にも期待が寄せられました。

桑原夏子さんの研究は、15世紀に活躍した修道士にして画家であるフラ・フィリッポ・リッピの実像を、先行研究とは異なる視点から切り込む意欲的なものであり、優れて実証的な研究として評価されました。

中村由香さんの研究は、明治〜大正期に生成・普及した「家庭教育」について教育学研究の枠組みからではなく、歴史社会的に分析する点が評価されました。

向井理紗さんの研究は、成人T細胞白血病を発症

する可能性のあるHTLV-1ウイルスの機能解析を試みるもので、具体的に示された手法も適切であり、かつ母乳を介して感染するウイルスでもあるため解析の成果が期待されました。

#### 【安井医学奨学生】

堀尾菜央さんの研究は、統合失調症の認知機能障害に関するものであり、核酸・たんぱく質・代謝産物などを用いた新しい治療アプローチを目指した点が高く評価されました。

### 第40回 社会福祉奨学生

社会福祉委員長 縄田 眞紀子

今年度の社会福祉奨学生応募者は、学部生7名です。専攻分野は幅広く学問への意欲と情熱を改めて感じました。10月22日、岩村道子奨学担当理事出席のもと選考委員会を開催。厳正に審議し、学部生3名を選出、11月理事会の承認を経て決定しました。

石井智夏さんは、「鉄道がまちづくりにどのように関わるか」がテーマに、鉄道事業が地域経済に与える影響とその公共的利益的あり方に取り組まれています。将来は都市開発分野に進み、まちづくりに関わっていきたく希望されています。

志磨村早紀さんは、卒業研究「聴覚障害学生支援における支援者と被支援者の心理的ギャップに関する研究」において、支援者と被支援者の気持のずれ、ニーズの不一致について取り組まれています。将来は言語聴覚士として、機能的なりハビリテーションにとどまらず患者さんの気持ちに寄り添ったアプローチができるようになりたいと将来ビジョンを描かれています。

関根彩香さんは、苦しい時も勉学をあきらめず強い意志と努力で幾多の困難を乗り越えてこられた方です。将来は社会福祉士・臨床心理士の資格を取得し、自らの経験や知識を生かして人の役に立つ仕事に就きたいと努力されています。

このように、身体に障害がありながら、それぞれの分野で研鑽を積み、その成果を社会に役立てたいと励まれている優秀な女子学生の方々に奨学金を差し上げることができました。これからも奨学生の方々が目標に向けて進まれ、将来の指導者として活躍されることを期待しています。

## 2011年度 JAUW 国内奨学生

### I 一般奨学生 大学院生6名 (\*ホームズ奨学生)

氏名	大学院	研究科・専攻	課程・学年	推薦	出身大学
*栄留 里美	日本女子大学大学院	人間社会・社会福祉学	博士後期・1年	第1ブロック	熊本学園大学
于 英 花	岡山大学大学院	自然科学・産業創成工学	博士後期・2年	岡山支部	吉林工程技术師範学院
吉川 貴子	東北大学大学院	医学系・医科学	博士・2年	仙台支部	埼玉大学
桑原 夏子	慶應義塾大学大学院	文学・美学美術史学	後期博士・2年	第1ブロック	慶應義塾大学
中村 由香	東京大学大学院	教育学・総合教育科学	博士後期・1年	第1ブロック	神戸大学
向井 理紗	徳島文理大学大学院	香川薬学・薬科学	修士・2年	第1ブロック	徳島文理大学

### II 社会福祉奨学生 学部生3名

氏名	大学	学部・専攻	学年	推薦	出身高校
石井 智夏	明治大学	経営学部公共経営学科	3年	第1ブロック	市川東高等学校
志磨村 早紀	早稲田大学	人間科学部健康福祉科学科	4年	第1ブロック	日向学院高等学校
関根 彩香	東京国際大学	人間社会学部福祉心理学科	2年	第1ブロック	筑波大学附属桐が丘特別支援学校高等部

### III 安井医学奨学生 大学院生1名

氏名	大学院	研究科・専攻	課程・学年	推薦	出身大学
堀尾 菜央	千葉大学医学研究院	医学薬学府・環境健康科学	後期博士・2年	第1ブロック	東京理科大学

## 提出論文概要と将来の抱負

### 【一般奨学生】

#### 児童福祉援助過程における子ども参加に関する研究——イギリスの独立アドボケイトを中心に——

栄留 里美 日本女子大学大学院

国連子どもの権利条約が規定する子どもの意見表明権・参加権を保障する子ども援助の方法論について私は研究しています。現在注目しているのは、日本を含めた世界18カ国で研究・実践がなされているファミリーグループカンファレンス(以下FGC)です。中でもイギリスのFGCにおいては独立したアドボケイトが子ども参加を支援するなど、子ども

自身の参加と意見表明の保障という点では世界で最先端の実践を展開しています。それゆえ、イギリスの独立アドボケイトを中心としたFGCにおける子どもの参加を研究し、日本の援助過程における子ども参加支援の方法論を探求しています。

国連子どもの権利条約は保護・付与の権利に加え、新たに参加の権利を保障しました。しかし国連による3度の勧告にみられるように、未だ日本の児童福祉が「保護」を体系とした制度・実践・研究に留まっています。子ども自身の参加に焦点を当てた研究はこれまでにあまり例がなく、本研究は日本に大きな示唆を与えると考えます。

将来の抱負は大学の研究者として就職し「児童福祉援助過程における子ども参加方法論」について世界に発信できる理論を構築することを目指しています。教育者としても子どもを権利を基盤にした支援を展開できる福祉援助者を養成していきたいと思っております。また現在も子どもたちの権利運動に関わっています。今後も社会活動にも積極的に取り組んでいく所存です。

## 触覚の空間認知特性を用いた認知症の早期診断に関する研究

岡山大学大学院 于 英 花

近年、認知症患者が急増し、社会問題になっている。近年の研究によると、認知症の原因はアミロイドβ蛋白(Aβ)が脳内に蓄積することで、神経細胞の死滅を引き起こし、対象認知や記憶などに関する高次脳機能が低下し、認知症を発症すると考えられている。しかし、現在の技術では患者死後の脳を分析しない限り、Aβ蛋白の蓄積したことを検出することができず、現状ではその早期診断方法はまだ確立されていない。最近の研究報告により、患者が認知症と診断されるよりも数年前の時点で、加齢に伴う知能低下と異なる低下傾向となることが確認されている。さらに、私が所属している研究室の研究成果を含め、機能的磁気共鳴画像(fMRI)法及び認知科学的手法によって認知症早期診断の可能性が示唆された。そこで本研究は、触覚空間認知の認知科学実験とfMRI実験を用いた認知症の早期発見方法の確立を目指している。

本研究では、まず、認知科学実験とfMRI実験を用いて、認知症患者と健常者の触覚空間認知特性及び脳内処理メカニズムの差異を検討する。次に、認知症患者における触覚空間認知モデル及び脳内処理・脳萎縮モデルを提案する。最後に、早期段階の認知症患者の触覚空間認知能力低下傾向を発見することによって、認知症の早期診断方法を考案する。将来的に、この触覚を用いた簡易認知症早期診断方法の医療現場への応用を期待している。

## 大脳皮質の時期特異的な神経細胞分化におけるDmrtファミリー遺伝子の機能解析

東北大学大学院 吉川 貴子

我々ヒトを含めた哺乳類の大脳皮質は、認知、学習行動などの脳高次機能を司る中枢として機能している。転写因子Pax6は大脳皮質発生過程における様々な現象に必須であり、実際にヒトにおいてPAX6遺伝子にヘテロ変異が生じると、大脳の白質が粗鬆化することが報告されている。また自閉症患者の遺伝子解析から、Pax6が自閉症発症に関係する可能性が示唆されている。本研究においてPax6下流遺伝子の機能を明らかにすることにより、複雑な大脳皮質構築過程の分子メカニズムの新知見を得ることと、精神疾患の遺伝的背景の理解にも大きく寄与することが期待される。



第10回自然科学講演会報告

「鉄と植物」－農学研究の面白さを知ろう－

2011・12・17 (土) お茶の水女子大学にて

講師の西澤直子先生(石川県立大学生物資源工学研究所教授・東京大学大学院農学生命科学研究科特任教授・2011年紫綬褒章受賞)が、植物の鉄の獲得戦略と、その原理に基づく石灰質アルカリ土壌耐性植物の作出についてお話しされました。



講演者の西澤直子氏

講演の冒頭では、西澤先生が農学研究を志した理由について、家族写真と共に紹介されました。祖父の「世のため人のためになることをするように」との言葉に大きく影響を受けたというエピソードから、植物栄養学を専攻するまでのプロセスは個人の歴史に裏打ちされた、重みのあるすばらしいイントロダクションでした。

世界の土壌の30%は、農耕地としては生産性の極めて低い石灰質土壌です。土壌がアルカリ性のため、植物は鉄を効率よく吸収できず、生育が妨げられます。このような土壌で育つ植物を作出するためには、まず、植物の鉄獲得機構を明らかにすることが必要です。イネ科植物はムギネ酸を根から分泌し、3価の鉄イオンとキレートを形成します。アルカリ性土壌では3価の鉄イオンは不溶化され、植物は吸収することができません。しかし、ムギネ酸と結合したキレートであれば、植物は吸収することができます。西澤先生は、ムギネ酸の生合成経路ではたらく酵素とその遺伝子、ムギネ酸を中心とした植物の鉄獲得戦略の詳細を明らかにしました。そして、このメカニズムに関与する遺伝子を導入した植物をつくり、アルカリ性土壌で育つ植物の開発を行っています。また、このような研究の過程で、白米の鉄の含有量を上げることに成功されました。

講演の合間に、それぞれの研究に貢献した若手の女性研究者が写真と共に紹介されたことも、印象に残る講演でした。

共催 科学研究奨励委員会 東京支部 お茶の水女子大学 (科学研究奨励委員会 加藤美砂子)

IFUW・Hegg Hofset 奨学生の報告

特設委員会委員長 高田 武子

この度の東日本大震災被害者に対して、IFUW・Hegg Hofset 基金(大学院生もしくは大学生を対象とした奨学金)から、JAUW に対して30万円の奨学金提供の申し入れがありました。

この申し入れを、特設委員会では、東日本大震災災害地支援事業として、大変有り難く受け入れるべく、その候補生の選考を、国内奨学委員会(岡部佳世委員長)並びに社会福祉委員会(縄田眞紀子委員長)に委ね、またIFUWとの連絡は、穂田信子国際委員長にお願いし、その労を取っていただくことになりました。

その結果、本年度の国内奨学生の応募生の中から、左記の3名の方が選考され、理事会の承認を経て、IFUW・Hegg Hofset 委員会に提出いたしましたところ、全員の受賞が決定いたしましたので、ご報告させていただきます。

- ☆吉川貴子さん 東北大学医学系研究科医科学専攻・博士2年、被災状況・実家が被災(仙台支部推薦)
☆石井美穂子さん 神奈川大学人間科学研究科人間科学専攻・博士前期2年、被災状況・実家が原発事故で居住困難(神奈川支部推薦)
☆菅野未知子 東京大学医学系・医科学・修士2



IFUWHeggHofset 奨学生の方々

年、被災状況... 実家が一部緊急避難準備区域に指定、経済的被害を受ける受賞者の皆さんは、新春のつどいに於いて、奨学金の贈呈をいたしました。

国際奨学生研究報告会

国際奨学委員長 平野 和子

12月23日、「国際奨学生イザベラ・グリツァさんの研究報告とポーランドについてのお話を聞く会」が、本部事務所で開かれた。彼女は9月30日に来日し、12月30日まで東工大資源化学研究所で「有機金属分子デバイスに関する研究」に従事してきた。穂田信子国際委員長に通訳の労をとっていただいた。まず、分子デバイスの研究は、ナノテクノロジーの世界の学問であり、裸眼では見えない1mの1兆分の1という極少単位であるナノメートルレベルの研究をする領域だという導入で始まった。

祝 JAUW 新法人スタート記念 久保陽子 ヴァイオリンコンサート ピアノ 百武恵子 プログラム クライスラー: プニャーニの様式による前奏曲とアレグロ バガニーニ: 24のカプリスより 第1番、第19番、第24番 サンサーンス: 序奏とロンドカプリチオーソ Op.28 バッハ: パルティータ 第3番 BWV1006 サンサーンス: ハバネ サラサーテ: ツィゴイネルワイゼン Op.20 ほか 日時: 5月12日(土) 16:30開場 17:00開演 場所: 津田ホール 全自由席 4,000円(学生 2,000円) (JR千駄ヶ谷駅前 都営地下鉄大江戸線国立競技場駅前) 主催 大学女性協会

ナノテクノロジーの一分野である、極少の金属分子デバイスの合成、それらの電子デバイスへの応用が、電子機器の能力を高めつつ、重量を軽減し、電力の消費を減らすことができる可能性があることが紹介された。彼女の所属した研究室では、さまざまなデバイスの中で分子ワイヤー、分子スイッチ、分子フラスコを中心とした研究しており、それぞれがどのようなものであるかの説明がなされたあと、2つのプロジェクトに参加して、まず分子フラスコの基礎となる化合物の合成を試み、残念ながらこれには失敗したが、次いで取り組んだ分子ワイヤーの基礎的合成に成功したことが報告された。最後に帰国後は、日本で使用していた元素と似通った性質をもつレニウムでの研究に活用して癌の治療に役立つ道に近づきたいとの希望を述べ、研究報告を終わらせた。次いで日本語でポーランドの建国のいきさつ、山々や川、砂漠まで美しい風景、おいしそうなお料理などの映像を交えて紹介し、同時に来日後の体験や感想にも触れて笑いを誘い、これ迄なじみの薄かった国への興味をそえられる楽しいひと時だった。笑顔を見せて話す上手な日本語、難しい研究に熱心に取り組み組んだ勤怠で誠実な姿勢が好印象を残し、グリツァさんの選考を大いに喜べる報告会だった。



2011年度国際奨学生のグリツァさんと通訳の穂田信子(左)、平野和子委員長(右)

新春のつどい



熱唱する塩谷靖子さんとピアノの塩谷多衣さん

まだ、大学女性協会に入会し日の浅い私に、真邊和美岡山支部長に、「協会の活動について知る良い機会ですよ。」とお誘いいただき、新春のつどいに参加させていただきました。新米会員で、初めての参加ということもあり、多少緊張しながら会場に着きましたが、新春のつどいらしい大変華やかで和やかな雰囲気の中で、楽しい時間を過ごすことができました。青木怜子会長のお話を始め、奨学金贈呈式や支部の紹介などから、長い歴史があり、女性の地位向上のために日本だけでなく世界で活動をされていることを実感させられました。強く印象に残っているのは、奨学金贈呈式での若い学生の皆さんのスピーチです。個々の思いが込められ、将来への意欲にあふれた力強いスピーチに感動しました。これまで活動してこられた先輩達との出合いは、大変刺激のあるもので、自身自身を振り返り反省すると共に、頑張らなければと気持ち新たにしました。第2部のコンサートでは、塩谷靖子さんの歌声はすばらしく、また、私の好きな曲もあり、どんなに引き込まれました。食事の席での、他の支部の方との交流も楽しい思い出となりました。最後になりましたが、お世話になりました皆様方に感謝申し上げます。 岡山支部 大塚智恵

「ボン会議に関する要望書」を提出

大学女性協会では、昨年11月16日付けで、玄葉光一郎外務大臣ならびに連舫内閣府特命担当(行政刷新・男女共同参画)大臣に宛て、「ボン会議に関する要望書」を提出した。要望書の趣旨は、以下原文にある通り、2011年12月5日、ドイツ連邦共和国のボン市で開催されるアフガニスタンの将来を検討する外相会議に向け、アフガニスタンの女性の参画を求めたほか、女性・平和・安全保障に関する国連安保理決議1325の早期実施に向けての国内行動計画の策定を求めたものである。要望書の提出は、国際大学女性連盟(IFUW)の要請に応じたもので、加盟各国で同様の行動がとられ、IFUW本部からは直接に開催国ドイツ連邦共和国外務大臣宛てに要望書が送られた。ここに掲載する原文は、外務省総合外交政策局人権人道課を通じて日本国外務大臣に宛てたものであるが、同文の要望書が内閣府男女共同参画局を通じて連舫大臣宛てに提出された。

2011年11月16日 社団法人大学女性協会 会長 青木 怜子
ボン会議に関する要望書
来たる2011年12月5日に、ドイツ連邦共和国のボン市に於いて、アフガニスタンの将来を検討する外相会議(ボン会議)が開催されます。当会議には、90カ国以上の外務大臣の出席が予定されていますが、日本からも外務大臣ご自身のご出席が予定されていることと念じております。つきましては、この会議へもアフガニスタン女性の参画につき、以下の要望に沿い、是非とも検討・ご尽力いただきたく、よろしくお願い申し上げます。
尚、社団法人大学女性協会(JAUW)は、国際大学女性連盟(IFUW、1919年創立)に加盟するNGOであり、今般、国際大学女性協会会長がドイツ政府(外務大臣)宛てに要望書を提出いたしましたので、その書簡をご参考までに、ここに添付させていただきます。
記
1. ボン会議に向けて以下のことを要望する。
①ボン会議の準備及び会議への代表者の中にアフガニスタンの女性が含まれること
②ボン会議及び市民社会フォーラムの議題にアフガニスタン女性の問題が含まれること
③ボン会議において、市民社会フォーラムから同会議宛てに送られる文書にあるようなアフガニスタン女性の声が反映されること。
1. 女性・平和・安全保障に関する国連安全保障理事会決議1325及び我が国の第3次男女共同参画基本計画の趣旨に鑑み、ボン会議への我が国代表団に女性を参加させることを要望する。
1. 他の国々に倣い、わが国でも安全保障理事会決議1325に関する国内行動計画策定に向け、一層の努力と促進が図られることを要望する。
以上
添付: 国際大学女性連盟(IFUW) 会長 Marianne Haselegrave より、ドイツ連邦共和国外務大臣に宛てた2011年11月3日付け書簡(要望書)の原文写し一通

新入会員(理事会承認) 2011年8月~12月
茨城支部 栗栖 恵子
東京支部 秋野 正幸
大阪支部 永井 由美子
岡山支部 大塚 智恵
真田 雅子
廣瀬 晴子
神奈川支部 渡部 由紀子